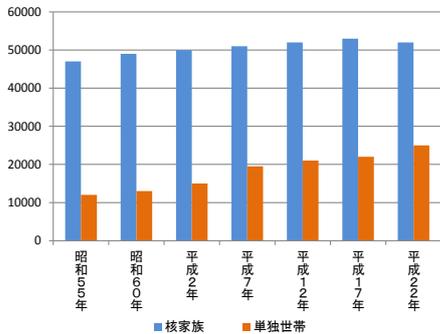


八戸古今写真

青森県立八戸商業高等学校
～ノーピクチャー・ノーライフ～

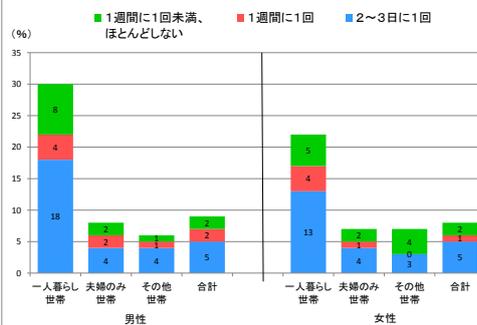
核家族化による高齢者と若者とのコミュニケーションの減少

単位：世帯 八戸市 核家族数及び単独世帯数の推移



グラフ1: 「あおもりポテンシャルビュー」 <http://www6.pref.aomori.lg.jp/p/view/bokei/shichoson/transition/hachinohe/IDH4P3.html>

会話の頻度(電話やEメールを含む)



グラフ2: 内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査(平成23年)」

八戸市の人口と世帯

人	総数	229,885 人
口	男性	110,234 人
	女性	119,651 人
世帯数		108,476 世帯

(平成31年1月31日現在)

八戸の人口: 「八戸市HP」

課題設定理由

八戸市は人口減少という問題を抱えています。先日も新聞などで「八戸市人口 23 万人割れ」と報道されていました。さらに核家族化が進んできています。グラフ1は核家族数及び単独世帯数の推移を表しています。この資料を見て分かるように核家族数と単独世帯数は年々増加しています。核家族化が進んでいるということは、まず、孫世代と祖父母世代の関わりが減っていることに繋がっているのではないかと考えました。実際、私たちもお盆やお正月などの特別な行事でしか会う機会がありません。

また、60歳以上の高齢者の方の会話の頻度は2～3日に1回がほとんどです。これは電話やEメールなど間接的な会話も含まれたデータなので直接的な会話となれば頻度はさらに減っていると思います。(グラフ2)

以上の点から私たちは、高齢者と若者の交流を深め地域を活性化させるために以下のアイデアを実現させようと考えました。

アイデアの内容

「八戸古今写真」という「今」と「昔」の写真を見比べることができるアプリを用いることで高齢者から当時の様子や思い出について話を聞くことができ若者との交流の場を作ることが出来ると考えました。そこで私たちはマチニワ(*1)のビッグスクリーンに目を付け、「八戸古今写真」と融合させようと考えました。



画像提供「八戸市博物館」

交流方法

- ・昔の写真を持ち寄る
- ・撮影場所までの移動時や撮影時に話を聞く
- ・アプリの写真をビッグスクリーンに投影
- ・今と昔を比べ思い出を語らう

*1 マチニワ

八戸中心街にある公共施設。光・緑・水などの自然を感じられる透明感あふれる空間です。市民の新しい活動・交流の場として利用されています。



イベントへの参加

既に、11月3日に行われた「八戸古今アルバム」に実際に参加しました。昔の写真と見比べて現在の風景を撮ることは、とても大変でした。しかし、昔の写真を見て「昔はこうだった」「ここはデートの待ち合わせ場所だった」など、八戸の昔を知る方々の話を聞くことはとても楽しかったです。そして、昔のことを話してくださった高齢者の方々はとても楽しそうでした。今となっては忘れ去られてしまった八戸の昔の建物や風景の写真を使うことで、当時のことを思い出すことができました。



実現のために

アイデアの実現のためには、高齢者と若者の参加、高齢者からの写真の提供、八戸の観光施設の撮影許可が必要になります。そこで、撮影させていただく施設への許可を早めに取り、撮影させていただきます。そうすることによって、早くSNSへ載せることができ、掲載期間が長くなるためたくさんの人にアプリを見てもらえると思います。

今後は、八戸七夕祭りや八戸三社大祭などの市内のイベント、ラピアなどの大型施設、老人ホームなどでこのアプリについてのアンケートを行います。

アプリと同時に進行でアプリに掲載した写真を使いマチニワのビッグスクリーンに流す動画も作成していきます。